

大屋式調製機

ORTH型 取り扱い説明書



事務所 : 〒452-0055 愛知県清須市西枇杷島町北二ツ杵74番地
TEL 052-501-1867 FAX 052-501-1877
工場 : 〒452-0064 愛知県清須市旭2丁目73番地
TEL 052-501-2821 FAX 052-501-1877

URL : <http://www.ohyatanzo.com>
e-mail : tanzo@mpd.biglobe.ne.jp

合名会社 大屋丹藏製作所

目次

注意事項の表記方法	P1
安全上のご注意	P1
目次	P2
設置について	P3
使用上の注意	P3
禁止事項	P3
主要諸元	P4
Vベルト一覧	P4
付属品	P5
設置方法	P6
組立完成	P6
各部名称	P7 ~ P8
作業手順その1	P9
作業を始める前に・・・	P9
作業手順その2	P10.
メンテナンス	P11
注油	P11
Vベルトについて	P11
清掃について	P11
ゴムロール交換について	P11
ロール取替え手順	P12
故障？と思う前に・・・	P13
配電図	P14

* 注意事項の表記方法

本書の中で表示がある部分は、本機をお使いいただく上で特に注意していただきたい内容をしめしています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、危険な状況が起こりえて、人が死亡又は重症を負う可能性が想定される場合。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、危険な状況が起こりえて、人が中程度の障害を負う可能性が想定される場合。

安全上のご注意

火災、感電、怪我などの事故を未然に防ぐ為ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を全て熟読し本機の知識、安全の情報等を習熟してから本誌に従い正しく使用して下さい。

設置について



警告

温度の高くなる場所への設置禁止
直射日光が当たる場所、暖房器具のそばなど温度が高くなる場所には設置しないで下さい。
火災の原因となることがあります。

火気の近くへの設置禁止
本機の一部にゴム、樹脂、木類、アクリル系及びラッカー系塗料を使用しています。
火災や感電の原因となることがあります。

水や薬品類のかかる場所への設置禁止
火災や感電の原因となることがあります。

不安定な場所への設置禁止
本機の設置場所はなるべく水平な場所に、本機重量を考慮した床面強度のある場所に設置してください。
不安定な場所へ設置するとケガや故障の原因となることがあります。

使用上の注意



注意

本機から異音や異臭 発煙など発生した場合
すぐに電源をOFFにしてください
電源コードを抜く、もしくはブレーカー等を落してください
ただちにお買い上げ販売店または当社にご連絡ください

本機の内部に水や薬品類が入った場合
すぐに電源をOFFにしてください
電源コードを抜く、もしくはブレーカー等を落してください
ただちにお買い上げ販売店または当社にご連絡ください
そのまま使用しますと火災や感電の原因となることがあります

指示された部位以外はさわらないで下さい
ケガや感電また故障の原因となることがあります

禁止事項



警告

お客さまによる本機の分解、改造は絶対しないで下さい。火災、感電、故障の原因となることがあります
また当社の保証範囲外となります。

製品 : 調製機

形式 : ORTH

能 : 最大7kg3kg/30秒

調製対 : 乾燥粉 (水分15%程度)

使用環 : 周囲温|0 ~ 45

全長 (m : 1,400

全幅 (m : 1,190

全高 (m : 2,400

重量 (kg)

使用電 : 三相2003.44kw

消費電 : 18A(定格)

詳細
脱芒部

回転数

第1 モーター三相4P750扱胴
無段変速₁唐箕

第2 モーター三相4P750スロワー

ファン ST3016(20埃排出 2,250rpm

初摺部

第3 モーター三相4P1,5 初摺

第4 モーター三相4P400唐箕
インバータ日立SJ-20唐箕

ゴムローリ統合小25₂ 4個

Vベルト				
		50HZ		60HZ
第1モーター	扱	A-65 * 2		A-71 * 2
扱 胴	無	A-41 * 1		A-41 * 1
第1モーター	ス	A-38 * 1		A-36 * 1
第3モーター	上	A-67 * 2		A-66 * 2
第3モーター	下	A-53 * 2		A-51 * 2
第4モーター	上	A-34 * 1		A-34 * 1
第4モーター	下	A-40 * 1		A-40 * 1

付属品



付属品名

	曲がり	パイプB	1本
	曲がり	パイプA	1本
	パイプ	914mm	1本
	パイプ	600mm	1本
	パイプ	500mm	1本
	ジ ョ ウ	ゴ 蓋	1個
	排 塵	ホ ース	1本
	機体カバー	中央	1個
	ジ ョ	ウ ゴ	1個
	試 料	容 器	2個
	車 輪	止 め	2個
	ドライバー	+	1個
	ス パ ナ	13	1個
	ス パ ナ	17	1個
	ゴムロール	間隔ゲージ	1個
	機体保護	シート	1枚

設置方法

組立完成



- 1 機体が動かないように車輪をロックして車輪止めを掛ける
- 2 ジョウゴの向きを間違えないように取り付ける。窓が正面に来るようにこの時ボルトはしっかり締める
- 3 ジョウゴの蓋を取り付ける
この時ボルトはしっかり締める
- 4 パイプを図の順番にはめる 曲がりBはジョウゴ蓋のボルトに付属のナットでしっかり固定する
- 5 メンテナンスカバーを乗せてしっかりボルトで固定
- 6 排塵ホースをつなぐ
- 7 集塵箱もしくは壁にあわせる
- 8 電源をつなぐ

各部名称



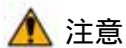
各部名称



埃取りレバー	脱芒機内部に残留している藁屑等の共雑物を排出するレバー
脱芒排塵レバー	脱芒機内部から出る埃を払い落とすレバー
籾送りレバー	脱芒機内でかくはんされた資料籾を籾摺へ送るレバー
脱芒唐箕变速	風力を調節するハンドル
スロワー	籾を送る装置
シロッコファン	埃を送るファン
メンテナンス機体カバー	メンテナンス時以外は必ず装着
配電ボックス	各スイッチ類
メンテナンス用扉	メンテナンス時以外は必ず閉める
資料出口	資料容器をこの下に置く。この時、資料漏れの無い様に
車輪ストッパー	機体が動かないように固定
ロール調節ハンドル	ゴムロールの間隔を調節
緊急レバー	上げると一気にロールが開く
プランジャー	籾自動送り制御
のぞき蓋	ゲージを入れて調節
籾摺り上ジョウゴ	最大7kg
籾進入防止網	籾が唐箕に入らないように、この網を定期的に掃除すること
輸送用フック	輸送用フック
オイルポンプ	手前に引くだけでオイルが注せる

作業手順その1

*作業を始めるまえに...



各ベルトカバー及び機体カバーがついた状態であること

称号番号については、P7、8を参照

籾送りレバー 称号番号
籾送りレバーが元の位置にあること

脱穀排塵レバー 称号番号
脱穀排塵レバーが元の位置にあること

プランジャー 称号番号
プランジャーの指針が(閉)の位置にあること

上籾摺りロール緊急レバー 称号番号
上籾摺りロール緊急レバーが下がった位置であること

下籾摺りロール緊急レバー 称号番号
下籾摺りロール緊急レバーが下がった位置であること

下籾摺りシャッター
下籾摺りシャッターが開いた状態であること

籾摺りロール間隔調節について

ゴムロール間隔調節ハンドル
シーズン毎に資料の大小によって調節して下さい。平均間隔は上籾摺りが0.8mm
下籾摺りが0.6mm位です。目安として、付属のゲージを使用して下さい。

付属のゲージは、あくまでも目安です。過信せずに
毎年の資料に合わせる事をお勧めします。



ゴムロール間隔を調節した上での脱稈率は上籾摺りで約80%、下籾摺りで残りの20%です。

資料容器
所定の位置に置いて下さい 称号番号

作業手順その2

メインスイッチ ランプ点灯

運転スイッチ ランプ点灯
ON

資料投

粕送りレバー操

スロワー

1度目粕

唐箕

2度目粕
摺り

唐箕

廃塵レバー

資料取り出し

各レバー確認

終了

粕摺り唐箕モーター以外の各主要モーターが動く

3～5秒後に粕摺り唐箕モーターが動く

投入口の蓋を開けて資料を入れる
すべて入れ終えたら蓋を閉じる

5～10秒の間脱芒しその後レバーを手前にたおす

スロワーよりパイプ内を通り資料は粕摺りへ

ジョウゴに貯留と同時に粕摺りが始まります

摺り終わった後すぐ唐箕がかかります
唐箕風力の調節はダイヤルで変更することができます

すべての資料が流れた時点で脱穀上部排塵レバーを
手前に引き、扱胴内に残ったゴミを出す

すべての資料が排出されたことを確認し、
容器を取り出す

すべてのレバーを所定の位置に戻し確認する

再度容器を置き次の資料にかかる

メンテナンス

注油 主要部分への注油は集中注油ポンプのレバーで自動となっております
目安として3日に1度レバーを引いて注油してください
尚、なるべく機械が作動している状態で注油してください(油漏れすることがあります)
その後の注油についてはシーズン終了後、機械清掃、可動部分に注油してください
注油後は脱芒機唐箕カバー及び各メンテナンス扉を戻し、機体保護シートをかけてください

Vベルト 各ベルトの張りはあまりきつくしないで下さい
調整する場合は各ベルト部にあるテンションプリーにて調節して下さい

清掃に 機械に埃等が付着したまま放置されますと湿気により錆びの原因となります

籾摺り唐箕部にある引出し式網はゴミや埃が付着しますので、時々確認し清掃して下さい
また取付けの際、向きがありますので間違えないよう注意して下さい

脱芒集塵ファンに付着した埃は掃除機等で掃除して下さい
またファン内部の羽根は大変曲がりやすいので清掃の際は注意して下さい

ロール交換について

籾摺り部にあるゴムロールは使用回数ごとに磨耗し、だっぶ率が悪くなります
また年数 保管環境によりゴムの硬化、劣化等生じ検査試料を傷めることとなります
早い時期に交換されることをお勧めします。 交換時期については購入した販売店もしくは
当社へお問合せください

ロールの取り外し

お客様で取り外し

輸 送

お買上げの販売店または当社

交換 - 輸 送

ロールの取替え

ロールの取り付け


お客様で取り付け

取り付け、取り外しについては次ページにて解説

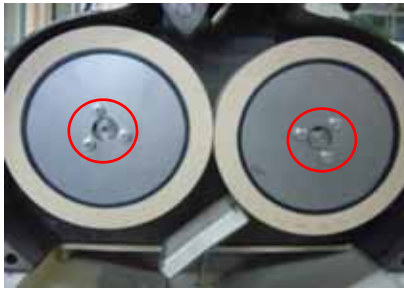


注意
必ずメインスイッチはOFFの状態です！

手前の蝶ネジ2個  を取りカバーを外す

 のボルトを工具 で外し全面カバーを外す

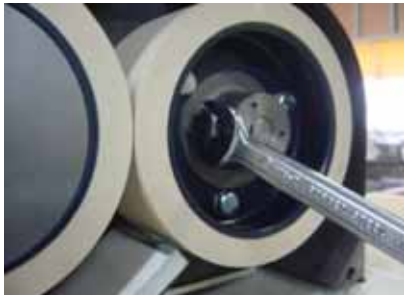
工具 13 スパナ



工具 を使いロール蓋取り外す

この時外したボルトなど中に落とさないように
万が一、中に入ったボルトは資料出口から出てきます
下刃摺り機の緊急レバー(称号番号 P7参照)
を上げてください

工具 ドライバー +



ロール台のボルト1個を工具 で緩め
ロールを引き抜く

工具 17 スパナ

ロールシャフト奥にあるカラーは外さないで
ください




この状態で販売店もしくは当社へ送ってください

戻ってきたロールはすぐに取り付けてください
取り付けの際各ボルトは確実に締めてください
ロールは奥に当たる位置まで入れて取り付け
てください



全面カバーの取り付け取り付けが
うまくいかないときは

 のボルトを緩めてください

工具 ドライバー +

故障？ と思う前に・・・

不具合内容	原因と対処	参照
本機が作動しない	<ul style="list-style-type: none"> *メイン電源が入っているか確認して下さい *サーマルリレーが落ちていないか確認をして下さい 	P7、8
資料がうまく流れてこない	<ul style="list-style-type: none"> *初落し口開閉レバーが閉まっていないか確認して下さい *上下ともシャッターを全開にして下さい *スロワーの中に藁屑等が絡まっていないか蓋をあけて確認して下さい 	P7、8
資料玄米に藁屑等が混入する	<ul style="list-style-type: none"> *被害があった時、又は夾雑物が多い時はある程度取り除いてから、資料を投入して下さい *脱芒唐箕風力が弱い可能性がありますので唐箕風力を調整して下さい 	P7、8
初殻が資料に混入する	<ul style="list-style-type: none"> *初摺唐箕風力が弱い可能性がありますので唐箕風力を調整して下さい 	P7、8
出てきた資料が異常に少ない	<ul style="list-style-type: none"> *脱芒唐箕風力が強い可能性がありますので唐箕風力を調整して下さい *初摺唐箕風力が強い可能性がありますので唐箕風力を調整して下さい *上部排塵レバーが開いていないか確認して下さい 	P7、8
初が剥けない	<ul style="list-style-type: none"> *上下ゴムロール緊急開閉レバーが上がっていないか確認して下さい *ゴムロールの間隔が広すぎていないか確認して下さい *乾燥状態が悪いとうまく剥けません 水分測定器で再度確認して下さい(15%程度) 	P7、8 P9
玄米の肌ずれ及び胴割れがある	<ul style="list-style-type: none"> *ゴムロールの間隔が狭すぎていないか確認して下さい *資料の乾燥状態が悪い可能性があります 水分測定器で再度確認して下さい(15%程度) 	P9